

万葉集と明日香について

1.万葉集の歴史的背景(飛鳥から平城への移り変わり)

万葉集は、全国の風土と密着した貴族層や庶民の歌謡を編纂した歌集である。大きく4つの時期に分けられ、飛鳥時代は第1期から第2期にかけて、律令国家の成立から充実完成期にあたる。この期には和歌が生まれ、皇族や宮廷貴族層などの間で和歌が最盛を誇ることとなる。

■万葉集の特徴

- 20巻全体の成立の年代は、奈良朝の末ごろ。
- 成立を異にしていた巻々が大伴家持の手元で整理され、家持の集めた歌集を合わせて編纂されたと言われている。
- 作者には、貴族層のほか、社会の各層にわたり特に無名の庶民の間の歌謡がたくさん含まれている。
- 地域的に中心の大和ばかりでなく、日本全土の各地にわたり、実地の風土と密着した万葉美を構成するものが多い。
- 老若男女、身分の上下も関係なく、天皇も、犯罪者も、名もなき人も詩を詠めたという点が特徴的。

■第1期～第2期

- 第1期は舒明朝から壬申の乱(672)までの約40年間で、初期万葉とも呼ばれ、皇権の確立に向かう政治的激動期。
- 個人的な抒情詩としての和歌独立に向けた発足の時代。
- 舒明・斉明・天智・天武天皇などの皇族の秀作が見られる。
- 第2期は壬申の乱の後、平城遷都(710)までの約40年間で、律令国家の充実完成期にあたる。
- 叙事詩的精神の溢れるものがあり、和歌も最盛を誇る。
- この期の歌風を最も代表するものは柿本人麻呂。

■第3期～第4期

- 平城遷都後から天平宝字3年(759)にいたる期間。
- 律令体制の矛盾は激化しつつあり、人民の労苦は増大して社会不安は深刻化していく時期。
- 大伴家持は、第4期の歌風を代表する歌人である。

西暦	年号	関連事項
592	崇峻5	推古天皇、豊浦宮にて即位する
603	推古11	小墾田宮に遷る。冠位十二階を定める。
604	推古12	聖徳太子、憲法十七条を作る
609	推古17	飛鳥大仏完成【元興寺縁起】
630	舒明2	飛鳥岡本宮に遷る
636	舒明8	岡本宮焼亡、田中宮に移る
640	舒明12	百濟宮に遷る
645	皇極4	蘇我入鹿暗殺(乙巳の変)
646	大化2	改新の詔を発する
653	白雉4	中大兄皇子、皇極天皇とともに倭京へ移る
655	斉明元	飛鳥板蓋宮焼亡、飛鳥川原宮に移る
656	斉明2	後飛鳥岡本宮に遷る
663	天智2	白村江の戦い
667	天智6	近江大津宮に遷る
672	天武元	壬申の乱。飛鳥浄御原宮に遷る。
680	天武9	皇后(後の持統天皇)の病氣平癒のため薬師寺を造る
692	持統6	藤原宮の地を鎮める祭を行う
694	持統8	藤原宮に遷る
701	大宝元	大宝律令完成
710	和銅3	平城京へ遷都
711	和銅4	大官等(大)寺並びに藤原宮焼亡。【扶桑略記】
716	靈龜2	元興寺を平城京に移す
717	養老1	大官大寺を平城京に移す。
794	延暦13	都を平安京に遷す

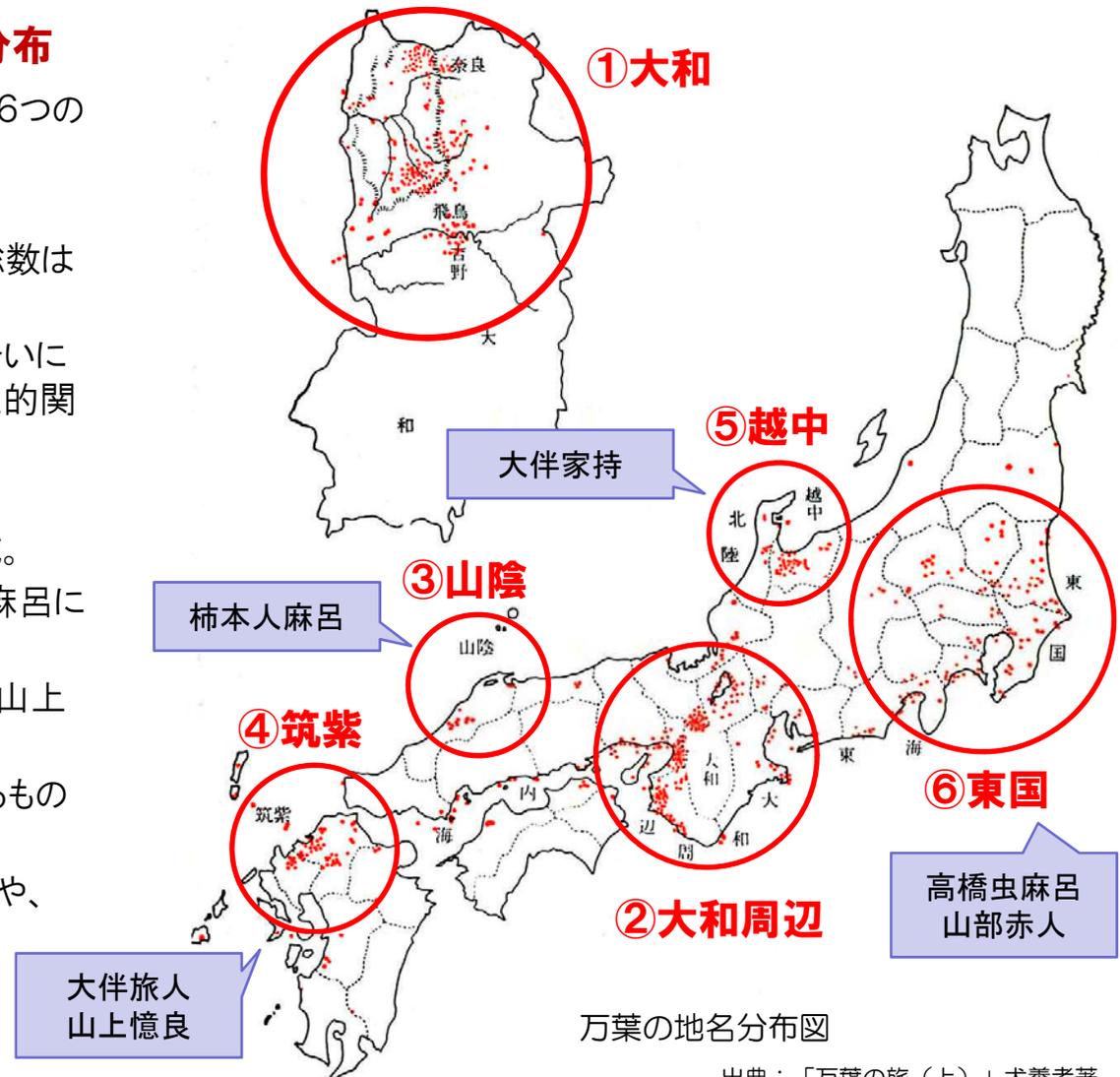
明日香村(飛鳥地域)略年表

2.万葉集の広がり(大和を中心に全国に広がる万葉故地)

万葉の故地は全国に渡っており、大和(奈良県)を中心として大きく6つの地域に分けられる。奈良県には総地名数の1/4が集中しており、地方の歌の風土的関連を考える上で、大切な場所である。

■大和(奈良県)を中心に、全国6つの地域に分布

- 万葉の故地は、ほとんど全国にわたっており、およそ6つの地域にまとめられる。
- 第一は大和(奈良県)で、地名はおよそ300(延べ総数は900)を数え、総地名数の1/4にあたる。
- 大和が中心となって、他の地域の風土的な関わり合いに影響を与えているようなものであり、地方の歌の風土的関連を考える上で大切なカギとなる。
- 第二は中央の大和に最も近い周辺諸国を含む地域。
- 第三は山陰の石見(いわみ)に赴任していた柿本人麻呂によるものを中心とする地域。
- 第四は筑紫で、大宰府の影響下の地や大伴旅人、山上憶良によるものを中心とし、九州全土が対象。
- 第五は越中で、中央から派遣された大伴家持によるものが中心。
- 第六は東国で、高橋虫麻呂・山部赤人らによるものや、自然発生的な要素が多い。



3.明日香村における万葉集の世界(万葉故地と歴史的風土との関係) 国土交通省

明日香村には万葉集に詠われた地名が数多く存在し、全国の万葉故地の中でも最も多いとされている。これらの地名を残す場所の大半は歴史的風土を感じることができる場として、良好に保存されている。

■万葉集に詠われた明日香村の特色ある歴史的風土

- 『万葉集』に所出する地名延べ総数2,900のうち、大和地方に関連する地名は延べ約900に及び、明日香村を含む高市郡に位置する地名(その一部に地名のついた単語を含む)は延べ約150を数える。
- 飛鳥は、全国の万葉故地のなかで最も多くの地を残しているといわれている。
- これらの地名を残す場所の大半は、現在も明日香村および周辺地域における特色ある歴史的風土を感じることができる場として良好に保存されており、これら万葉集に詠われた特色ある歴史的風土は国民共有の財産となっている。



「明日香川 明日も渡らむ 石橋の
遠き心は 思ほえぬかも」
(巻 11-2701)



「橋の 島にし居れば 川遠み
曝さず縫ひし 我が下衣」
(巻 7-1315)

明日香(飛鳥)	島の御門	三諸乃神名備山
明日香の里	島の御橋	神名備能三諸之山
明日香風	滝の御門	甘嘗備乃三諸乃神
飛鳥壯(飛鳥男)	勾の池	甘南備乃里
明日香川	島	神名火乃淵
明日香の川	南淵	甘南備河
清之河	南淵山	三諸之山礪津宮
七瀬の淀	細川	三垣の山
遠飛鳥宮	細川山	垣津田の池
飛鳥岡本宮	真神の原	小墾田
高市岡本宮	大原	小治田
明日香川原宮	矢釣山	板田の橋
後岡本宮	八釣川	年魚道
岡本宮	雷岳	豊浦寺
崗本天皇	雷	置勿
明日香清御原宮	伊加土山	檜隈
浄之宮	神岳	佐日之隈廻
明日香宮	神岳の山	檜隈川
清御原の宮	逝廻丘	真弓の崗
明日香の旧京都	打廻乃里	旗野
橋	打廻前	佐太の岡
橋寺	神奈備	越
川原寺	神名備山	越野
島宮	神名火乃山	越乃大野

万葉集に所出する地名の一覧(高市郡)

4.万葉集が体感できる施設(万葉歌碑)

明日香村内には、飛鳥川沿いや周遊歩道沿い、史跡区域内など合わせて36基の万葉歌碑が建てられており、万葉集に詠まれた心情を思い浮かべながら、その場の雰囲気を楽しむことができる。

■万葉歌碑の建立

- 明日香村内には、36基の万葉歌碑が建立している。
- 風土と結びついた万葉故地を体感できる飛鳥川沿いや飛鳥歴史公園内の周遊歩道沿いの他に、飛鳥寺や川原寺等の境内地、万葉文化館、古都買入地などに位置している。
- 史跡区域内では、飛鳥稲淵宮殿跡、飛鳥寺跡、川原寺跡及び橘寺境内に位置する。

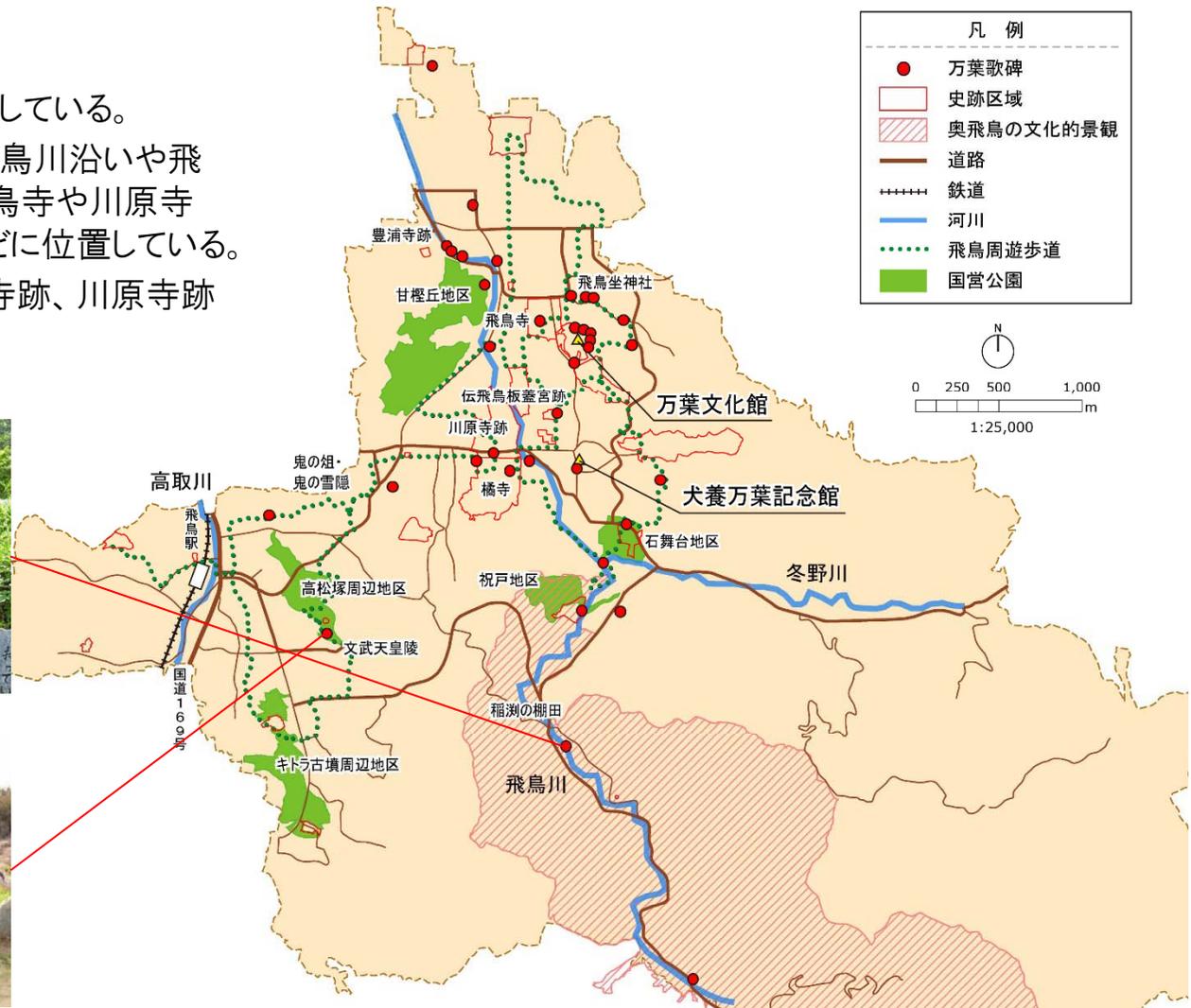
明日香川 明日も渡らむ
石橋の 遠き心は
思ほえぬかも

作者：未詳
場所：飛鳥川の石橋
揮毫者：犬養孝（国文学者）



立ちて思ひ
居てもそ思ふ 紅の
赤裳裾引き 去にし姿を

作者：未詳
場所：飛鳥歴史公園（高松塚）
揮毫者：犬養孝（国文学者）



万葉歌碑等の立地

4.万葉集が体感できる施設(万葉文化館、犬養万葉記念館)

万葉集に関連する施設として「万葉文化館」と「犬養万葉記念館」があり、各施設では万葉集に関する展示のほか、図書の閲覧、講座への参加などを通じて万葉集の世界に親しむことができる。

■万葉文化館

- 万葉集を中心とした古代文化に関する総合文化拠点として、平成13年に開館。
- 万葉に関する文化の振興を図る展示機能(万葉ミュージアム)、万葉集に関する情報の収集提供を行う図書・情報サービス機能(万葉図書・情報室)を併せ持つ。

《講座「万葉集をよむ」》

- 万葉文化館の研究員が、『万葉集』の歌々を数首ずつ取り上げて、丁寧に読み解く。
- 毎月の連続講座となっているが、内容は1回ごとに完結。誰でも、1回だけでも、自由に参加できる。



万葉劇場



万葉図書・情報室

万葉集をよむ

毎月開催している「万葉集をよむ」。当館研究員が『万葉集』の歌々を数首ずつ取り上げて、丁寧に読み解きます。今年も「万葉集」巻3の挽歌(万葉集)がテーマです。連続講座ですが、内容は1回ごとに完結します。どこからでも、どんなにでも、1回だけでも、自由にご参加いただけます。「万葉集」ってなに? 「古典文学は難しいのでは…」という方も、「古代史に興味がある」「奈良のことをもっと知りたい」という方も、どうぞお気軽にお越しください。

テーマ 『万葉集』巻3 挽歌

年度	日	歌	巻3の挽歌	
平成26年度	4月30日	万葉集と聖徳太子	(415～419巻歌)	
	5月28日	石田王の挽歌	(420～425巻歌)	
	6月25日	火勢が来たえた影	(426～430巻歌)	
	7月23日	伝説の美女	(431～437巻歌)	
	8月27日	天孫降臨と天孫皇の挽歌	(438～442巻歌)	
	9月24日	ある聖人の晩期	(443～445巻歌)	
	10月22日	聖への思い—大伴旅人の場合—	(446～453巻歌)	
	11月19日	賢人崇徳と旅人	(454～459巻歌)	
	12月17日	歌の道徳と道徳	(460～461巻歌)	
	平成27年度	1月28日	聖への思い—大伴旅人の場合—	(462～474巻歌)
		2月25日	安福皇子挽歌6首	(475～480巻歌)
		3月25日	巻3の構造—巻2との比較—	(481～483巻歌)

講師 4・7・10・1月 井上さやか(万葉文化館主任研究員)
5・8・11・2月 竹本 晃(万葉文化館主任研究員)
6・9・12・3月 小倉久美子(万葉文化館主任講師)

時間 各回14:00～15:30 ※謝儀13:30～

定員 150名(当日先着順)

会場 奈良県立万葉文化館(奈良県高市郡高市町東1-1)

問い合わせ先
〒634-0103 奈良県高市郡高市町東1-1
奈良県立万葉文化館 企画課/奈良県立万葉文化館
TEL 0744-54-1850 (代)
FAX 0744-54-1852
ホームページ http://www.manyo.jp

奈良県立万葉文化館
Nara Prefecture Standing Manyo Culture Center

予約申込不要 聴講無料

万葉文化館が主催する講座

出典：奈良県立万葉文化館

■犬養万葉記念館

- 「万葉風土学」を提唱した万葉集研究の第一人者であり、「犬養節」と呼ばれる独特の万葉朗唱で知られた、大阪大学名誉教授 故犬養 孝氏の業績を顕彰する記念館として、平成12年に開館。
- 犬養氏の遺品や直筆原稿、万葉歌の墨書などの展示のほか、ビデオ映像が上映され、万葉に関する図書約8,000冊の閲覧ができる。
- 万葉故地を紹介する企画展や特別展を開催。



犬養万葉記念館

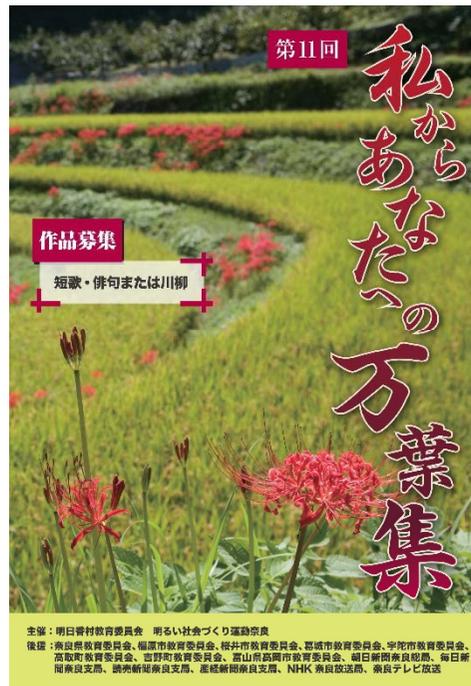
出典：一般財団法人 明日香村地域振興公社

5.万葉集に親しむ取組み(教育、伝承芸能)

明日香では、万葉集に親しむ様々な取組みが行われており、現代語で故郷や地域を思い詩に表現する催しの他に、伝承芸能である万葉朗唱や八雲琴が受け継がれ、観月会などのイベントで披露されている。

■私からあなたへの万葉集プロジェクト

- 縁によって結ばれた故郷や地域を思い、人のいのちを大切に
する思いを、現代の万葉集「私
からあなたへの万葉集」として
募集し、万葉時代の始まりとい
われる明日香の地で入選発表
会・講演会を催すもの。
- 平成16年から始まり、平成26
年で11回目を数える。
- 平成26年のテーマ「伝えたい
私の思い」に沿って、短歌・俳
句・川柳の作品を募集。全国
各地から約1,200点の応募が
あった。



▽小学生の部 大賞
《短歌》飛鳥路田んぼのいねに赤とんぼのどかな風景みんなみとれる
《俳句・川柳》見守りの笑顔が待ってる通学路

▽中学生の部 大賞
《短歌》好きなのに嫌いとおつたえ終わらせた心の穴をどう埋めようか
《俳句・川柳》そのドアは私ひとりでも開けてみる

出典：明るい社会づくり運動 奈良

■明日香村伝承芸能保存会

- 古事記・日本書紀の時代より受け継がれてきた
伝統的な芸能「南無天
踊り」「八雲琴」「飛鳥蹴
鞠」「万葉朗唱」を復元し、
継承に取り組んでいる。
- 「万葉歌は歌うもの」(故
犬養孝氏)。謡曲調、詩
吟調、朗読調、童謡調
など、自分の口を動かし、
大きな声で歌うことによっ
て、古代の作者や風景
を理解することができる。



八雲琴



万葉朗唱

出典：明日香村伝承芸能保存会

■観月会

- 毎年、中秋の名月の夜
の行われている。
- 万葉歌の朗詠、二弦琴
演奏、雅楽演奏を聞き
ながら、万葉の世界に溶
け込み、往時の主人公
のような気分を味わう。



観月会

出典：あすかナビ

6.全国に広がる万葉集のつながり(奈良県)

奈良県では、万葉集や古事記、日本書紀をはじめとする歴史素材を収集・整理・活用する「記紀・万葉プロジェクト」が、平成24年度より9年間にわたる取組みとして進められている。

■記紀・万葉プロジェクト(奈良県)

- 奈良県が発信する、現代と古代、古代と未来、そして、ひとりひとりが楽しみながら、歴史とのつながりを実感する取組み。
- 平成24年(2012)『古事記』完成1300年から平成32年(2020)『日本書紀』完成1300年という二つの節目の年をつなぐ9年間にわたるプロジェクト。
- 「記紀・万葉集」をはじめ、そのほか連綿と受けつがれてきた様々な文献、地域の伝承なども含む豊かな歴史素材を活用しながら、多面的に進められる。
- 「文献・伝承」「現場・現物」及び「復元物等」の3つの要素すべてに関するソフト情報を収集、整理、調査分析し、総合的なテーマ付与手法を開発する。



記紀・万葉プロジェクトの概要

なら記紀・万葉ホームページ

出典：記紀・万葉プロジェクト基本構想

6.全国に広がる万葉集のつながり(高岡市、鳥取市、任意団体) 国土交通省

高岡市や鳥取市など、万葉故地が多い地域の自治体が積極的に万葉集を活かした施設整備やイベント等の取り組みを行っているほか、各地の民間団体が全国のネットワークを使って交流イベント等を実施している。

■高岡市

- 奈良時代に越中国(富山県)の国府が置かれ、代表的歌人である大伴家持が、5年間国守として在任していた。
- 高岡市では、「万葉」をテーマとした多くのイベントや、「万葉」に関心の深い全国の人々との交流など、「万葉のふるさとづくり」を推進している。

《高岡万葉まつり》

- メインイベントである「万葉集全20巻朗唱の会」をはじめ、多彩な万葉関連イベントが市内一円で繰り広げられる。
- 朗唱の会は、万葉集全20巻4,516首の歌のすべてをリレー方式で歌い継ぐ。連続三昼夜にわたり、2,000人を超える人々が高らかに朗唱する。

《高岡市万葉歴史館》

- 家持の生涯を語る「家持劇場」、映像が視聴できるメディアボックスなど、越中万葉の世界が多面的に展開。
- 館内は常設・企画展示室、四季の庭、図書閲覧室等で構成されている。



高岡万葉まつり(朗唱の会)



家持劇場のイメージ



音楽朗読劇

■鳥取市

- 万葉集の最後の歌は、鳥取で生まれた。759年に、因幡国司として赴任していた大伴家持が、新年の宴席で詠んだ歌が、最後の歌となった。

《因幡万葉歴史館》

- 「万葉文化」をコンセプトに地域文化と観光振興を図ることを目的として設置された施設。
- 大伴家持の生涯にスポットをあて、万葉人の心や感性に迫る展示など。



万葉集朗唱の会



因幡万葉歴史館

■民間団体の取り組み

- 「山陰万葉を歩く会」が島根・鳥取両県の文化・経済の交流を目的に、講演会や旅行を行っている。
- 「紀伊万葉ネットワーク」が和歌山県の万葉歌の活用と継承等を目的に、ウォーキング等を実施。
- 「鞆の浦万葉の会」が広島県福山市、「大宰府万葉会」が福岡県太宰府市で活動している。